

出版から見た 小田原の戦後文化史

小田原は、明治時代から北村透谷、川崎長太郎など近くでは小田淳、夢枕獏など多くの文学者を輩出しています。また優れた環境にも恵まれ、北原白秋を始め多くの文化人が訪れています。それらの人々に啓発され、小田原には様々な文化活動が興り現在に続いています。八小堂書店元社長で西さがみ文化フォーラム事務局長の小泉政治氏が、50年以上にわたる書店人生で出会った人々や書物を通して観た小田原の文化活動の歴史について3回シリーズで語ります。



昭和30年頃の八小堂



故永六輔氏と講師
(平成12年3月)



八小堂に集った文壇関係者(昭和34年)
(壇一雄後援会後で)

- ◆ 講師：小泉政治氏（西さがみ文化フォーラム事務局長）
- ◆ 日時：12月12日（水）～2019年年2月20日（水）13:30～15:30
受付 13:00より
- ◆ 会場：生涯学習センターけやき 大会議室
- ◆ 講座：3回連続講座、全水曜日

- 第1回:12月12日（水）小田原の文化活動の源流
- 第2回:1月30日（水）戦後混乱期の小田原の文化活動
- 第3回:2月20日（水）昭和後期から平成の小田原の文化活動
(各回の講座内容の概要は裏面をご覧ください)

- ◆ 定員：100名（申込順）
- ◆ 費用：2,500円（全3回分、1回だけ受講の場合は1,000円）

【申込方法】

- ◇ 申込先・問合先：NPO法人小田原市生涯学習推進員の会（生涯学習センターけやき内）
- ◇ 電話受付：0465-33-1890（平日9時～16時、第4月曜日除く）
又は、キャンパスおだわらホームページから <http://www.campusodawara.jp/kouza/>

講座の概要

第1回：小田原の文化活動の源流

明治時代から多くの著名な作家、芸術家などが箱根・小田原を訪れて活躍しました。それらの人々に啓発され、箱根小田原で様々な文化が育ち、今も形は変わっても引き継がれ史跡保存や文化活動の礎となっています。また、図書館の存在が文化活動の大きな原動力でした。

第1回講座では、二宮尊徳の高弟で箱根の興隆に貢献した福住正兄や、小田原町助役で「明治小田原町誌」を著した片岡永左衛門、小田原町立図書館（小田原市立図書館）を母胎に文化活動に尽力した石井富之助、中野敬次郎、立木望隆などの人々について解説します。



石井富之助氏
(石井富之助著図書館一代)

第2回：戦後混乱期の小田原の文化活動

小田原でも戦後の混乱の中で、いち早く文化活動が興りました。担い手になったのは、文化団体、青年団、婦人会や公民館活動を推進する地域に根ざした若い世代でした。

第2回講座では、第1回でも解説した図書館活動の石井富之助を始め、田代亀雄、井上和男、永田東一郎、井上嘉夫など後に戦後の小田原文化活動の中心になる人たちや、こゆるぎ座、大日本報徳会、青年民主政治研究会、理想協会等の文化活動の団体について解説します。



井上和男氏を囲んで

第3回：昭和後期から平成の小田原の文化活動

高度成長時代を迎えて生活基盤が改善されたため、様々な文化活動の母体が相次いで発足し文化の躍動期を迎えます。郷土文化館の開館もあり、小田原史談会、小田原俳句協会、小田原地方史研究会、小田原文化団体連絡協議会など多くの団体が発足し、現在まで活動が継続しています。それと共に小田原市史、小田原文庫、箱根叢書、小田原ライブラリーなど郷土史を中心とした出版物も多数発刊されています。これを受けて平成に入りさらに多くの人々により活動が広がり現在に至っています。



小田原地方史研究会
(岩崎宗純氏と金原左門氏)

講師プロフィール

小泉政治 (こいずみまさじ) 氏



1937年(昭和12年)9月 神奈川県秦野市に生まれる
1953年(昭和28年) 八小堂書店入社
1957年(昭和32年) 小田原城東高校(夜)卒業
1999年(平成11年) 八小堂社長に就任
2004年(平成16年) 同社閉店に付き退社
現在、西さがみ文化フォーラム事務局長